

10月の技術対策（水稻）

平成18年10月1日
J Aきたそらち・J A北いぶき
空知農業改良普及センター北空知支所

1 平成18年の水稻を振り返って

本年の稲作は、大きな気象変化にさらされた1年でした。

6月：低温・強風・日照不足で、分けつは緩慢。

7月：上中旬の高温により遅発分けつが多発。

8月：高温で経過したが、遅れ穂が多く穂揃いが悪化。

来年に向けて本年の問題点・課題を整理してみましょう。

(1) 遅発分けつの要因

不時出穂（早期異常出穂）

不時出穂の目立った品種

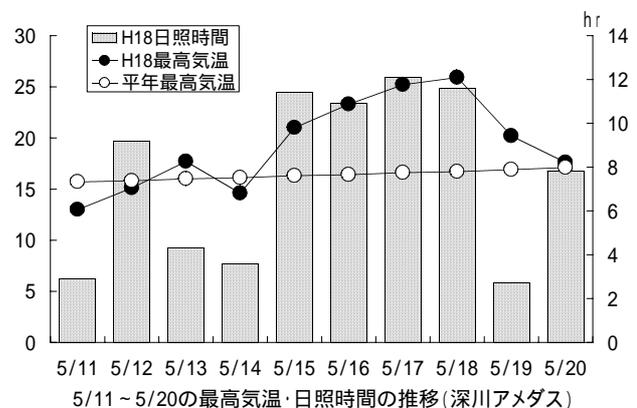
「ななつぼし」「ほしのゆめ」

不時出穂の原因

育苗期間後半（2.5葉期以降）

の高温により感温性が働いたため。

最近の「巻き上げ式」のハウスでは換気が不足し、ハウス内の温度が下がらない場合があります。



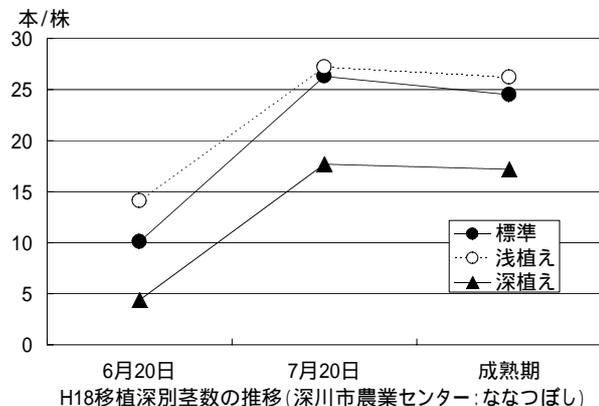
深植えによる分けつ抑制

深植え

苗代分けつを無効化にし、初期の分けつを抑制した。

浅植え

分けつが旺盛になるが、浮き苗や欠株が増加する。



(2) 翌年に向けて

遅発分けつの発生要因の多くは人為的なものであり、管理を徹底することで発生を最小限に抑えることができます。

育苗時の温度管理を徹底し、不時出穂を防ぐこと。

植え付け深を適正にし、初期の茎数確保を心がけること。

移植後の水管理を徹底し、初期の茎数確保を心がけること。

土壌由来窒素(地力)の影響

北空知の水田土壌は、土壌由来窒素を多く含んでおり、遅発分けつ・穂揃いの悪化を招きます。

地力に応じて、稲わらを搬出し土壌由来窒素を低下させることが重要です。

2 水田雑草の発生動向

本年度は水田内の雑草発生が目立ちました。

6月は発生が少なく経過しましたが、7、8月から急増しました。

発生の遅れた主要因として、6月の低温により雑草の発生が遅れたことがあげられます。

(1)目立った草種

ノビエ：7～8月以降に花穂が目立ち始めた。

オモダカ：深さ20cmの土中下層にある塊茎からも芽が出るため発生が長期化。

ヘラオモダカ：稲株に隠れるように発生。

ミズアオイ：局地的に発生。

アゼナ：7～8月以降に発生が目立ったなど。

(2)草種に合った除草剤を選択

主なSU系除草剤抵抗性雑草は、ミズアオイ・アゼナ・ホタルイなどがあります。残草が極端に偏る場合は抵抗性の疑いがあります。これらの草種が目立つ場合には、非SU系除草剤を選択し慎重に対応しましょう（詳しくは雑草防除ガイドに掲載）。

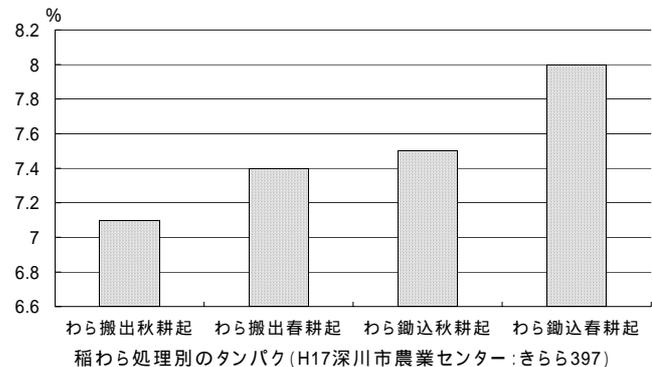
3 来年の稲作は、すでに始まっている

(1)稲わら処理

稲わらの鋤込みは、土壌の還元や生育阻害物質の生成などを招き、タンパク含有率を高める要因となります。

稲わらを搬出すること。

やむを得ず鋤込む場合は、秋耕起で鋤込むこと（透排水性の良い水田に限る）。



稲わら・籾がらの焼却は、大気汚染・健康障害・交通障害などの原因になります。稲わら・籾がらは絶対に焼却しないでください。稲わら等の焼却（野焼き）は、罰則が適用される場合があります。

廃棄物の焼却禁止違反：5年以下の懲役、1,000万円以下の罰金、又はこの併科。

(2)表面水の排除

「溝切り」は、田面の停滞水や融雪水を排除する有効な方法です。

(3)透排水性の改善

「心土破碎」「チゼルプラウ（スタブルカルチ）」は、透排水性の改善に有効な手段です。継続的に施工することで効果が上がります。

チゼルプラウ(スタブルカルチ)のメリット

土壌の練りつぶしが無く乾燥が良好

作業効率が高い

-----作業上の注意-----

稲わらが混和されないの稲わら搬出後の施工が効果的
乾土効果が大きいので、施工後の施肥量に注意する